

アイ、エス、ティ

## 概念変える「ウール開発」

### MUで発信し「強い手応え」

高機能素材製造のアイ、エス、ティ(ISTT、大津市)はこのほど、原料への加工技術で「これまでの概念を変える」新たなウール素材「ブラチナウール」を開発した。7月にイタリアで開かれた国際生地見本市「ミラ

ノ・ウニカ(MU)で初めて披露。「サンブルを手取った来場者の顔の表情が変わるほどで、強い手応えを感じた」として、国内外のトップブランドに向けて市場開拓に乗り出す。



艶やかな光沢感のある「ブラチナウール」

素材の良さをそのままに、欠点であるチクチク感を排除。繊維径が極めて細く、優しい肌触りとともに、滑らかな表面により、毛玉ができてくれない。艶やかな光沢感がありながら触るとひんやりとすることから「ウールでもカシミアでもない、全く新しい」素材感を出せ、

秋冬だけでなく春夏向けでも提案ができる。MUでは欧米の市場開拓に協業する、イタリア・ヒエラ地区にあるニッ・トメーカーCMテストティのブリスを通じて出展。ISTTは航空・宇宙分野で使われるポリマー材料の製造など、もともと異業種から繊維業に参入し、「新たな視点から素材開発ができる。バックボーンがある」。さらに欧州では日本以上に環境配慮に

対する意識の高まりもあって、MUでは来場者から「テクノロジーに対する期待感も感じた」と言

う。「薄手であれば羽衣のようなさらっとしてふわっとした」重さを感じない質感に加え、こわこわした感触になりやすい圧縮シャージでもしなやかで上質感のある生地仕上がる。価格帯は1万3千〜1万5千円ほどで、「まずはトップオアトップのゾーン」へ販路開拓を進める。

商標を取得し、海外でも「ISTTブラチナウール」として取得を進める。ウールマークや、責任あるウールの調達に関する自発的な国際基準レスポンスフル・ウール・スタンダード(RWS)の認証も取得した。

糸は24、58、80、100(200双)毛番手を軸に展開し、協力工場を通じてシャージや織物の供給もできる。2026年

には年間で100万の生産を計画、5〜10年後にはブラチナウール全体で売上高50億円を目指

す。同社は03年に梳毛紡績、毛織物製造の日興毛織(岐阜県羽島市)の事業を継承。羽島事業所旧日興テキスタイルでトップ工程から梳毛紡績までの一貫生産体制を構築している。紡績技術を駆使し、見た目以上の軽量感のある糸「カールカー」は国内だけでなく、中国や東南アジアへも輸出している。